

画像センシング展2012 展示会セミナー報告



黒岩 正信
KUROIWA Masanobu
日本メックス(株)
本誌編集企画小委員

画像センシング展2012がパシフィコ横浜で2012年6月6日(水)から8日(金)まで開催されました。会場は熱気があり、約200人座れる二つのセミナー会場も立見が出る盛況ぶりでした。

特別招待講演の中から6月8日(金)の二つの講演に参加しましたので簡単にご紹介したいと思います。

1. 誰にでもわかる「超高速画像処理」 ～ITS開発のための高速化技術とは～

講師は(株)豊田中央研究所 情報エレクトロニクス研究所 走行環境理解研究室の町田貴史氏で簡単に言うと「人につづらない車両作りのための画像処理技術」ということで、すでにトヨタのプリウスなどに搭載されている衝突を事前に察知し、追突衝突時の被害を軽減する自動ブレーキシステムの人への応用という話で、歩行者の歩いている方向などを分析して制御する画像処理技術です。PC上ではほぼリアルタイムで分析可能などまでできているが、車に乗せるためには低電力のコンピュータで実現しなければならないので、そのデバイスが実現するまでにあと2年くらいは掛かりそうということでした。最近、居眠りによる事故などが報道されているので、早く実現して欲しい技術だと思いました。また、画像処理のスピードも専用のチップを並列で配置することで格段に早くなって

いるということが示されました。これはゲームソフトなどでCGが多用されていることにも繋がっているそうです。

自動車に関する最近の話題として、スウェーデンのボルボ社を含むヨーロッパのプロジェクトで、スペインのバルセロナ郊外の高速度道路で200kmの自動走行に成功したというニュースがあり、いろんな形でセンシング技術や通信技術を活用して、これまで夢のような話であった事が実用化に近づいているようです。

2. モノづくりの現場を支える画像応用システム ～ヒトを超え、ヒトに近づく～

講師は(株)日立ハイテクノロジーズの経営戦略本部 新事業創生部部長の野口稔氏で、いろんな分野の検査機器などの紹介がありましたが、最後に示されたスライドの言葉が印象的でした。「検査工程は付加価値を生まない。無い方が良いのである。」という言葉と同時に示された「検査が品質を保証するためのよりどころ。画像センシング技術がキーテクノロジー」という言葉です。半導体検査装置の設備投資に対する比率は10%になるということ、かなりの費用が掛かっているようでした。

また、今後の事業展開の一つとして、「社会インフラ分析ソリューション」という話があり、老朽化した橋などの社会インフラの点検分野に従来のノウハウを水平展開して安全・安心のインフラを提供しようということのようです。

社会インフラの点検調査技術も画像センシング技術で大きく発展する可能性を感じた二つのセミナーでした。



写真-1 展示会の様子



写真-2 セミナーの様子